



12月13日あいおいニッセイ同和損害保険株式会社(石丸 宗樹宮崎支店長)

地方創生や健康増進を推進 保険会社と連携協定を締結

市は「第2期てなんど小林総合戦略」の実現に向けた地方創生に関すること、また「健幸のまちづくり」推進に向けた健康増進に関することについて、3つの保険会社と連携協定を締結しました。各社が持つ独自のノウハウやネットワークなどを活用し、市のPRや講座の講師派遣、健(検)診の推進などに連携して取り組んでいきます。



12月15日アクサ生命保険株式会社(石橋 浩宮崎支社長)



11月19日第一生命保険株式会社(小谷 彰宮崎支社長)

株式会社マルミヤストアが レジ袋有料化の収益金を寄付

11月22日、食品スーパーを経営する株式会社マルミヤストアが市に10万円の寄付を行いました。寄付金は、レジ袋有料化によって小林店で得られた収益金をもとにしたもの。同社はプラスチックごみ削減や食品ロス削減などの環境問題にも積極的に取り組んでおり、今回いただいた寄付金は同社の意向により環境行政に活用されます。



寄付採納式に参加した小林店の馬渡正博店長は「小林店で得られたレジ袋の収益金を寄付します。環境行政に有効に役立ててほしい」と話していました



前田愛琉さん(小4年)は「高校生のお兄さん、お姉さんが優しく教えてくれたので、楽しみながらプログラミングができた」と感想を話しました

高校の授業を一足先に 小学生のプログラミング体験授業

11月22日、小林秀峰高校でプログラミング体験授業が行われ、須木小学校4～6年の児童24人が参加しました。授業をとおして、論理的思考の育成や地元の高校に興味を持ってもらうことが目的の初めての取り組み。児童の指導は秀峰高校の“ローカルプロデュース部”の生徒が担い、プログラミング体験や学校見学を行いました。

子どもたちの健全な成長を願って

12月2日、小林ライオンズクラブ(八反禎一郎会長)が市内全ての小・中学校にほうきなどの環境美化用品を寄贈しました。昭和53年から続けている取り組み。八反会長は「身の回りをきれいにすることの大切さを学んでもらいたい」と話しました。



植樹活動で豊かな自然環境を次世代へ

11月27日、松ヶ尾市有林で「みんなで育てよう!どんぐりの森づくり植樹祭」(北霧島水源の森づくり推進会議主催)が開催されました。市内外から約100人が参加し、どんぐりの苗木850本を植樹。同団体は平成16年から18年間にわたり植樹活動を行っています。



小林市総合文化祭作品展を開催

11月23～24日、小林市総合文化祭作品展が市民体育館・中央公民館(小林会場)と野尻町農村環境改善センター(野尻会場)で開催されました。当日は、市民など5千人以上が訪れ、展示された絵画や写真、生け花、手工芸品などを楽しんでいました。



人権擁護などに尽くした10年

10月25日、人権擁護委員の椎原えい子さんが法務大臣表彰を受章しました。椎原さんは平成23年7月に委嘱され、人権相談・人権啓発活動を通じて市民の人権思想普及に尽力されてきました。それらの継続した活動に対する表彰となりました。



活動を共有しながら未来を語る

11月26日、市PTA協議会役員や市内の各小・中学校PTA会長などが集い、情報交換を行う市PTA協議会懇談会がガーデンベルズ小林で開催されました。特徴のあるPTA活動などを紹介しながら、今後やってみたい活動について意見を交わしました。



小林の食などの魅力をPR

11月27日、市内生産者と市が一体となり市の魅力発信を目的とした「こばやしマルシェin宮観」を宮崎観光ホテルで開催。宮崎市の花火大会に合わせて開催されたもので、会場では特産品販売所やPR・体験ブースを設置し多くの来場者でにぎわいました。



部代表の鶴優希さん(2年)は「県大会の反省をしっかりとって、全国大会では1秒にこだわって、メンバー全員でがんばりたい」と抱負を述べました

小林中学校陸上駅伝部が 19年ぶりに全国へ

11月22日、小林中学校陸上駅伝部が11月に行われた県中学校駅伝大会で優勝し、12月3日開催の九州大会(佐賀県)および、12月18日開催の全国大会(滋賀県)に出場することを報告しました。同部の全国大会出場は19年ぶり4回目の快挙で、県大会では6区間中4区間で区間賞をとる見事な走りを見せました。



参加した小林高校1年の福留優月さんは「議論を通じて、養護教諭になって人の役に立ちたいという夢を再確認できました」と話していました

将来なりたい自分や仕事を考える 小林近未来ハイスクール開催

12月11日、中央公民館で「小林近未来ハイスクール」が開かれ、中・高校生と社会人約70人が参加しました。参加者は15のグループに分かれ、社会人のサポートのもと「将来就きたい職業」や「どんな大人になりたいか」について議論。議論を終えて自分の考えがどう変化したのかを共有するなどして、自身の未来像を考えました。

須木を歩き魅力を再発見

11月21日、須木地区で4キロのコースを歩くフットパスが行われました。須木庁舎を出発した約20人の参加者は、地元の人々の解説を聞きながら歩き、大年神社や柚子園などを巡りました。普段は気が付かない風景や、魅力を再発見するイベントになりました。



サンタクロースに興味津々

12月17日、須木中央保育園でクリスマス会が行われ、サンタクロースが登場。園児たちは、サンタにクリスマスにまつわる質問をしたり、お菓子のプレゼントをもらうなどしました。最後はクリスマス曲に合わせてサンタクロースとダンスを踊りました。



小林高校バスケット部・女子駅伝部 全国大会での活躍を誓う

12月9日、全国大会に出場する小林高校男女バスケット部と女子駅伝部が出場報告を行いました。男子バスケット部森永歩夢主将は「活躍することで応援してくれる人へ恩返しする」、女子バスケット部の永田姫舞主将は「体が小さくても全国で戦えると証明したい」、女子駅伝部藤田あい主将は「それぞれが役割を果たして入賞を目指す」と意気込みを話しました。



左から永田主将、藤田主将、森永主将。ウィンターカップは12月23日～29日の日程で、全国高校駅伝は12月26日に開催されます

小学校と地域と一緒に防災意識を

11月28日、栗須小学校で2年ぶりの「みかんやまスマイルフェスタ」が開催されました。地域の絆を深めようと住民が主体となって取り組んだ活動で、防災訓練では、県の防災救急ヘリコプター「あおぞら」による救急訓練披露や車体見学がありました。



誰もが楽しめるスポーツ「ボッチャ」

12月の野尻地区生きがい学級では「ボッチャ」を体験しました。参加者は競技の成り立ちと基本のルールを学んだ後、利き手ではない手のみで試合するなど条件を変えて競技を体験しながら、誰でも一緒に楽しめる方法を考えました。



ハンドボール選抜選手の小林中3年小坂虎太郎さんは「保護者や先生方に感謝の気持ちを持ち、自分たちらしいプレーをしたい」と抱負を述べました

ハンド・バレーの県選抜に選ばれた 小林中・三松中生徒が出場を報告

12月9日、JOC ジュニアオリンピックカップハンドボール大会と同バレーボール大会に県選抜選手として出場する、小林中と三松中のハンドボール部男女15人と三松中バレーボール部男子2人が出場報告を行いました。ハンドボール大会は12月22日～26日に徳島県で、バレーボール大会は12月25日～28日に大阪府で開催されます。



松崎代表は「利益をまちへ再投資するという経営理念を実現できた。コロナ後も見据え、我々なりの新しいサービスを提供していきたい」と話していました

中心市街地活性化や観光客呼び込みへ 小林まちづくり株式会社がホテル新設

12月17日、小林まちづくり株式会社（松崎庄二代代表取締役）がビジネスホテルを新設することに伴い、森田哲朗市議会議長立ち合いのもと企業立地協定調印式が行われました。昨年8月に閉鎖した中心市街地のホテルを、まちづくりや観光に必要な不可欠として購入。地元から従業員を新規雇用し、1月中旬の操業開始を目指します。



田中望鈴（3年）さんは「成果を披露できて嬉しかったです。緊張はしましたが、衛生面には細心の注意を払いました」と話していました

小林西高校生が3年間の成果を 保護者や恩師に披露

12月8日、小林西高校で調理科3年生による学習成果発表会と試食会が開催されました。調理科生徒が保護者や中学校の恩師などに対して、3年間の学習の成果を披露する場として毎年開催。会場には生徒それぞれが考え、調理した日本料理・西洋料理・中華料理をきれいに彩るなど、来場者に腕前を披露しました。

本市出身力士の琴砲さんが活躍を報告

12月6日、本市出身力士で佐渡ヶ嶽部屋所属の琴砲さん（本名：熊添銀次郎さん）が市長を表敬訪問しました。琴砲さんは、平成28年3月の初土俵以来番付を上げ、令和三年十一月場所では東幕下十一枚目として出場して勝ち越し。十両に向けて奮闘中です。



子どもたちに昔ながらの遊びを

11月18日、野尻町東麓の鍛冶職人白坂伊佐男さんが、野尻地区の小学校に竹とんぼを寄贈しました。仕事の合間に手作りしたもので、野尻小学校で行われた贈呈式では、白坂さんから上手な飛ばし方を教わった後、一緒に竹とんぼを飛ばして遊びました。

